

CASE 学習「2人目の子供が欲しい女性」／前分析と分析

<前分析>

- ① 印象＝強い依存。非常な恥ずかしがり。自分には出来ない。でも強い責任感。
- ② 健康度（0～10）＝6～7
- ③ 予後（良いレメディがある時／レメディがない時）は、どうなるか？
 - ◆ 良いレメディがあれば＝妊娠する。依存心が減り、自立的になり、様々なことに自信をもって、大人として、家庭生活（あるいは社会生活）を営めるようになる。
 - ◆ 良いレメディがない時＝妊娠できない。依存心は強いままで、いつも誰かに頼り、何事も一人では対処出来ないまま、子供のままでのような一生を終える。
- ④ 救急性（急性か慢性か～救急性があれば、そこから始める）＝慢性
- ⑤ 治癒を妨げているものは？＝ない。
- ⑥ 親和性（部位）＝精神・喉（扁桃腺）・全身（冷えに弱い）
- ⑦ マヤズム傾向（Psora Syphosis Syphilis Cancer TB）＝Psora 的
- ⑧ 全体性（レメディはいくつ必要になるか？）＝一つ。
- ⑨ バイタリティー＝6～7

<本分析>

全体を見渡すとこの方の特徴は・・・

身体面＝不妊。冷えに弱い。冷えから不調が起き、扁桃腺が腫れる。

精神面＝何事も自立的に出来ない。他者（親・夫・先輩など）に完全に依存している。見知らぬ人・場所が苦手。人前で話をすることは困難。学習能力に欠けている。全体として、まるでまだ幼い子供のように極端なほど自信がなく、自分には、物事へ対処する能力がないと思い込んでいる。自分は、まだ大人に成長できていない……そうした「自己無能力（未成長）感」が彼女の中心。それにも関わらず、強い義務感・責任感を持っている。ここが、SRP である。

・・・こういう全体像を持ったレメディを探す。

以上